



好学愛知 自律敬愛 質実剛健

鶴丸イ言

鹿児島県立鶴丸高等学校

〒890-8502 鹿児島市薬師二丁目1番1号

TEL 099-251-7387 FAX 099-255-3433

http://www.edupref.kagoshima.jp/sh/Tsurumaru/top.html

4月の行事予定

4月

1	水		学年始休業日
2	木		
3	金	第1回職員会議	
4	土		
5	日		
6	月	新任式・前期始業式 復習考査(2・3年)	宅習時間調査
7	火	第63回入学式	
8	水	対面式, 1年オリエンテーション(1) 新入生入スタ復習考査(2・3年)	
9	木	1年オリエンテーション(2) 胸部検診13:30~	
10	金	1年オリエンテーション(3) 第2回職員会議 職員研修(心肺蘇生)	
11	土	1年スタディサポート	
12	日		
13	月	1年オリエン(4) 心臓検診13:30~ 体育保健合同委員会 部活動紹介	
14	火	1年オリエン(5) 健康診断3年13:30~	
15	水	健康診断1年13:30~	
16	木	健康診断2年13:30~	
17	金	一日遠足	
18	土		
19	日	創立記念日 一中同窓会総会	
20	月	創立記念式典(記念講演)	
21	火		
22	水	尿検査一次	
23	木	尿検査一次・耳鼻科(1年 13:10~)	
24	金	甲南鶴丸スポーツ交歓会	
25	土		
26	日		
27	月		
28	火	身体測定	
29	水	昭和の日	
30	木	生徒総会	

高校の世界史の授業の「コマを思い出す。世界史の18世紀ドイツ文学に関する解説の中で、ゲーテやシラーの起こした文学革新運動 Sturm und Drang (シュトルム・ウント・ドラング)の紹介があった。青春時代を「疾風怒涛の時代」とするその考え方は当時の私にとっては衝撃的であり、自分のあり方をまさに的確に言い表した言葉として納得したのである。

高校時代を改めて振り返ると、それはまさに Sturm und Drang そのものだった。世間的な言葉で美化された「輝ける時代」無限の可能性を秘めた時代」という言葉はいかにも空々しく、自分のあり方に迷い、自分の生き方に迷い、人との関わり合いの構築に悩み傷つき、自分らしさを見いだせない自分に失望しながらひたすら歩みを重ねただけの時代のように思っていた。それは、荒れ狂う波の中で試行錯誤を重ねつつ何かを克ちとり、少しずつ自己の Identity を確立していく遥かなる旅路の出発点だったと思える。

いくつもの挫折の嵐を踏み越え3年間をとらに過ぎしてきた第60期生を見送った今、卒業生たちの青春の葛藤の足跡が幾つも重なって見える。緑の風が渡る草原を意気揚々と歩み始めた彼ら。やがて先の見えない森に吸い込まれ、深い霧にささぎられて方向を見失って歩を止めてしまふこともあった。しかし、「目標」という星の光と「強い意志」というコンパスを持つた彼らは、「人間性」というオーラに包まれ、「絆」という信頼関係で仲間たちと結ばれて、確実に目的地向かって歩を進めて行った。

こたわりを持って毎日を過ごすことがどれほど人間にとって大切なものであるかという真実は、少なくとも3年という区切りを経て初めて分かる。ある者にとっては部活動と学習の両立が壁と支えであったろうし、ある者にとっては土日を問わず学校の空気の中に身を置くことだっただろう。また、ある者にとっては日常生活の何気ない場面の一つひとつが自分のこだわりを見せる場であったと思う。61期生・62期生たちが「弱い自分」と正面から向かい合いながら日々の研鑽を重ねて大人に近づいていくことを強く願う。

誇り高き青春を讃えて

三学主任 水迫 達郎

第60回卒業式



3月2日月、柔らかな春の日差しが降り注ぐなか、第60回の卒業式が挙行され、晴れてこの日を迎えた31名の卒業生たちは、凛とした姿でこの学び舎を巣立っていった。

式辞では、学校長より「1. 学ぶことに食欲であって欲しい。2. 学びの中で人格を高めて欲しい。3. 学びを通して『我』を知ることによって到達して欲しい」というメッセージが送られた。また「これから『自分の詩』を紡いでいく先輩方は、不安や不満の闇が渦巻く社会の中で希望の光を信じている」という在校生代表の小屋敷亮介君からの送辞に対し、未来の自分への手紙という形で「未来の僕へ。君は僕の憧れる姿になっているのではありませんか。僕がこの手紙を君として読むとき、君はさらに先を走っていてほしいと願っています」と卒業生を代表して下田隆史君が答辞を述べた。

どこまでも限りなく広がる大空は、鶴丸での3年間の修練を終えた若き鶴丸たちが翼をはためかせて飛んでいくのを待っている。卒業生の前途に幸多からんことを切に願う。

本年卒業の北島詩織さんが実用英語検定1級に、二年生の立和田薫子さんが準1級に見事合格した。現役高校生が英語検定1級・準1級に合格することは、大変な快挙である。

北島さんは卒業後、得意の英語を活かして東京の大学に進学する。好きな語学の力を伸ばし頑張っている同級生・先輩の姿は、皆にとっても大いに励みになるだろう。鶴丸での環境を最大限に活用し、さらに充実した高校生生活を送ってほしい。

実用英語技能検定1級・準1級合格!

豊かな社会にしよう

防犯教室をおして



3月18日(水)、鹿児島西警察署からお二人の講師をお招きして防犯教室が開かれた。現代社会において深刻な問題となっている携帯電話・インターネットを利用したハイテク犯罪などについて、過去の事例などを用いながら、

ありがとうございました

平成21年度異動発表

平成21年度定期人事異動が発表されました。転退職の先生方は次の通りです。

教頭	神田芳文	川辺高校 校長
教頭	岡留秀一	総合教育センター 教育相談課課長
理科	福迫真見	加治木高校 教頭
地歴公民科	山之内伸明	指宿高校 教頭
国語科	岡元末治	定年退職
国語科	梅本かおり	加世田高校
地歴公民科	中島哲平	岐阜県立郡上高校
数学科	中尾靖定	川内高校
保健体育科	内野公貴	伊集院高校
保健体育科	迫奈緒美	奄美高校
英語科	高味 浩	鹿児島玉龍高校
英語科	林 圭介	沖永良部高校
専門員	岩元耕太郎	薩摩中央高校事務次長
専任員	遠武光利	実習助手として新規採用

保護者による学校評価の結果報告

保護者による学校評価の目的は学校運営や教育活動について、その成果・問題点を明らかにし、更に保護者のニーズを把握すること、よりよい教育活動の展開を図ると同時に、学校に対する保護者の関心や理解を深めていただくことです。例年通りアンケートで20の項目を1.2.3.4の4段階で評価し、裏面に改善策や意見等を書いていただきました。

アンケートの結果、「1:よく当てはまる」「2:やや当てはまる」という肯定的な評価は、ほとんどの項目で80%以上の高い割合を占めており、特に「1:よく当てはまる」は、15項目で昨年を上回り大きく改善されています。

評価が高かった項目は、次の項目です。

- 1 文化祭・体育祭など、諸行事に生徒が積極的に関わっている。 97%
- 2 建学の理念(校訓)は日々の教育に生かされている。 96%
- 3 信頼できる友人が多く、良い刺激を受けている。 96%
- 4 生徒の動静(欠席・遅刻等)について保護者との連携がとれている。 96%

逆に評価が低かった項目は、次の項目です。

- 1 それぞれの能力に応じて成績を伸ばす適切な学習指導がなされている。 77%
- 2 部活動と学習の両立が上手くなされている。 78%

保護者の方からは、24件(そのうち携帯電話に関しては13件)の貴重な御意見や改善策をいただきました。評価の低かった項目や御意見を参考に、現在各課各学年で検討し改善を図りつつあります。なお、アンケートの結果については、本校のホームページに掲載してありますので御覧下さい。